

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風 グループホーム(1階)		
所在地	土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	平成27年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2191800016-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2191800016-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、日々の散歩・買い物・外出等地域との交流に配慮し、施設内だけでなく『地域密着』からくる外部からの刺激や施設に対する理解を得ることが出来る様近隣の店舗・飲食店を利用している。ボランティアの方のご協力で演芸会・ヨガ・音楽療法等楽しいひと時を持ち、ケアセンターの利点でもあるセンター内の利用者との交流や合同行事も行っている。利用者の心の声に耳を傾け居心地の良い生活の場を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の玄関に入ると、クラシックの音楽が流れ、訪問者を歓迎する思いを書いた、ウェルカムボードが置いてある。家族や地域住民との関係を大切に、事業運営を行っている。職員に向けては、活力や意欲を高めるために、互いの気づきを出し合えるよう、職場環境を整え、強固なチームワークを築いている。職員は、その気づきをケアに活かし、担当を決めて事業所内外の美化にも取り組んでいる。運営推進会議は、行政と直接意見交換ができる場として、家族も関心が高く、多数参加している。職員は、利用者や家族の思いを受け止め、耳を傾けながら、日々の生活に満足できるように、支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付く所に掲示し意識をもって業務に当たっている。毎月のグループホーム会議で確認・共有を行っている。	理念は、会議の冒頭で唱和をし、地域密着型サービスの意義を確認し、共有している。利用者と家族の思いを受け止め、住み慣れた地域と関わりながら、その人らしい生活が送れるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩や買い物で近所の方と触れ合いの機会をもつ。多種のボランティアの受け入れを行っており、ヨガには近所の方も来所され一緒に楽しんで頂いている。	自治会の一員として、地域の盆踊りや文化祭に参加をしている。事業所の夏祭りには、地域住民を招いたり、ボランティアとの交流も盛んである。近隣からは、野菜の差し入れや収穫の誘いなどがあり、日常のつきあいができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流の場を設け、相談にのったり、一緒に過ごして頂くことで認知症を少しでも理解して頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動・行事報告を行い、ご家族から意見を頂いている。ご利用アンケートも行って、それに基づき職員同士で情報共有し支援に活かしている。会議には近隣の方、他施設の方にも参加を頂き意見交換、情報共有に努めている。	会議では、多くの家族が参加し、行政とも活発に意見を交わしている。出席の家族や近隣からは、何かできること、手伝えることがあれば協力をしたいとの申し出があり、近隣の人には、散歩時の協力を得ている。会議で出た意見や提案を、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議に、地域の代表者や住民の出席率が低いので、参加を得るための呼びかけに、さらなる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政・包括・市内の他の事業所とも連絡を取り情報共有を行いながらサービス向上につなげている。	市には、運営推進会議への出席依頼や、事故報告、空き情報の届け出などで、こまめに足を運び、担当者に事業所の実情も伝え、協力関係を築いている。市主催の連携会議に参加し、情報交換を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスの中で何が身体拘束に当たるのか、支援の方法一つ一つを具体的に挙げ、確認を行っている。センター全体で研修も行っている。	管理者は、身体拘束についての研修を、年間計画に組み入れ、全体で具体的な事例や弊害を学び、理解をしている。利用者の車椅子からの立位時には、目を離さず、手の届く位置で見守っている。言葉による拘束についても、職員間で常に意識をし、拘束ゼロに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター全体の研修だけではなくグループホーム独自でも勉強会を行っており、言葉掛け一つでも間違えれば虐待になる認識を持つよう注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在対象となる人はいないが必要時には行政と連携して支援していく姿勢でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間を掛け説明申し上げる。改正の際には会議を利用し説明、又面会時にも説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場だけでなく、玄関に意見箱も設置し、要望・苦情を受け付けている。会議の場で話し合い会議録にも記載し行政に提出している。職員にも伝え業務の中で周知させている。	家族の意見や要望を、運営推進会議や面会時に、聴いている。訪問の少ない家族には、電話で聴いている。ホーム便りに、利用者の身体状況や暮らしぶりを掲載し、家族の記入欄を設けて、意見・要望を受け付け、適切に対処をしている。また、利用者、家族が介護相談員に、意見や要望を伝えられるシステムがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見を聞き検討・反映につなげるように努めている。日常的にも意見が出しやすい雰囲気作りをしている。	会議や日常の現場の中で、職員の意見や提案が話しやすい職場環境である。利用者への対応の改善や、職員のチームワークづくり、事業所内外の美化運動などの提案があり、それらを検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員は年2回の人事考課、契約職員・パート職員は年1回の契約更改がある。それ以外でも普段から上司との面談を行い個々の思いや目標を傾聴している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター会議内での研修、グループホーム内での勉強会の実施、外部研修の情報提示。新人にはトレーニングシートを用い、トレーナーを付け資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会参加、市内介護サービス事業者との交流を重ね横のつながり、顔の見える関係を構築している。その中でお互いの質の向上に向けて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の申込みや契約の際など、本人の思いの傾聴に心掛けている。また家族の思いも大切にしケアプランに反映させ家族への説明を行い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際に色々な悩み、不安などを話して下さる方が多い。不安・要望を受け止め入居決定後もそれらを配慮・尊重し、信頼関係を築く様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人それぞれの思いや、状態を観察し利用可能なサービスの選択肢についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々を尊重し、残存能力を生かした支援を行っている。家事等、積極的に依頼し役に立つという思いを持って頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やプランの変更時会議の場などで家族の思いを傾聴しサービスに反映させている。キーパーソン以外の方からも話を伺うように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながらグループ会や兄弟会等、参加して頂けるようにしている。	家族や知人の面会時には、気持ちの良いもてなしを心がけ、帰りの際には、利用者と共に見送り、次回の訪問につながるよう配慮している。市の介護相談員や気楽に立ち寄る学生とも顔馴染みである。家族と一緒に、行きつけの美容院や買い物に出かけ、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時には介入するが、互いを労わる姿が多く見られ、利用者が他者の面倒を見て下さることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、新規に入居された施設を訪問している。必要に応じて情報を提供し、相談・支援に努めている。亡くなられた利用者のご家族が今でも来所して下さり、思い出を語る時間を共有しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己表現の難しい方は日頃の観察に努めカンファレンスで情報共有し、思いを反映できるよう支援している。表現できる方は、常に思いを傾聴し、職員で共有し支援している。	日常のケア場面で、利用者一人ひとりと向き合い、思いや意向を聴いている。意思表示が困難な人は、表情や動作を観察し、思いを汲み取るよう努めている。その人の思いに寄り添い、満足感のある暮らし方につながるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、基本情報にはいつでも書き込めるようにしており、キーパーソン以外の方からの情報も大切にしている。サービス利用に関してはケアマネから情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス、毎日の介護記録から情報共有を行い、それを反映した介護計画作成に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、必要時の担当者会議の中で本人・家族のニーズに沿ったケアについて話し合いをしている。短期目標は達成できるような内容としモニタリングをしながら介護計画を作成している。	介護計画は、介護記録や支援経過、心身の状態を検証し、本人や家族の意向を反映させながら、短期目標を立てて作成している。その人の持つ能力と自立を支え、地域の中で、自分らしい生活が送れるように、具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何のために記録をとるのかを職員に指導している。気づきや工夫は日常的に意見が出ており実践し、介護計画にも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時に、自施設他部所の看護師に相談・職員により通院介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるヨガ・近所の方との交流、介護相談員派遣など様々な地域の協力を受けながら安全で安心できる生活を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に説明し、病院は利用者の希望に沿っている。月2回協力医による往診がある。原則として他の病院に関しては家族対応になることを説明している。	かかりつけ医は、特別な治療を受けている人以外、法人の協力医に変更している。協力医は、月に2回の往診があり、急変時に対応可能である。他科受診は、基本は家族の対応とするが、場合によっては、職員が代行している。医師と家族、職員が情報を共有し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に相談する、即座に対応が必要なときには施設内の看護師に相談・指示を受けている。訪問看護師とは24時間電話連絡体制があり夜間の相談も可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護サマリーの提供はもちろんのこと、度々お見舞いに行き、情報交換や相談をしている。退院後は殆ど戻ってきて頂いている。日ごろ病院関係者とはお互いの思いを伝え関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの可能性が出た時点で家族と話し合いを重ねている。徐々に変化していく家族の思いを汲み取りながら事業所で出来ることをお伝えし、方針をたて全体で共有し看取りに取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期の指針を説明している。その後は、家族や利用者の思い、また、状態の変化に合わせて、話し合いを重ね、方針を共有している。訪問看護と協力医との24時間体制で連携し、職員のターミナルケアの充実を図り、終末期に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会は行っているが、急変時には主治医・看護師に連絡し対応・処置の指示を受けている。緊急連絡網を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した年に2回の避難訓練を実施している。個々の移動能力、所要時間の把握、消防署の協力体制もとっている。近所への応援体制もっており連絡網も掲示している。	災害訓練には、消防署の協力を得て実施をしている。連絡網には、3名の地域住民を含み、夜間に職員が駆けつけられる所要時間を計測して確認し、実践的な訓練をしている。備蓄品を確保し、適正に管理している。	事業所から、地域の防災訓練に参加し、住民と関わることで、事業所の訓練にも、近隣住民の参加や協力を得られるよう取り組み、支援体制につなげていくことに、期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉遣いに注意している。難聴の方には大きな声になってしまう為、周囲への配慮を行っている。	利用者の人格を尊重し、誇りを損ねないよう努めている。職員は、接遇マニュアルに沿って、学習をしている。日常的に、利用者への言葉かけや対応方法など、職員同士で気づいた時は、その都度、話し合い、改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位とにならない様に、利用者の思いを尊重している。自己決定出来ない方には表情を確認しながら支援し笑顔を引き出す様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に思い思いに過ごして頂いている。状況が把握できず不安な方・声を掛けないと傾眠されてしまう方には表情を確認しながら安心できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った装いは勿論のこと、化粧水や整髪剤も不足時には家族にお願いし、その人らしさの維持継続を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から食べたい物を伺い、献立に反映させている。準備・片付けまで一緒に行っている。食事時の会話も楽しみながら職員も一緒に食べている。	食材の買い出しや、野菜の下ごしらえ、食器洗いなど、利用者の能力を活かし、職員と共に行っている。利用者が育てた野菜や、近隣から届けられた食材を生かして調理し、利用者それぞれのペースで、職員を囲んで、楽しい食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事の残量確認を行っている。体重の増減、主治医との連携、職員の視点等で体調管理を行い健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自己にてケアが難しい方には職員により義歯洗浄、ご本人にはうがいを促している。清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握、時間をみて誘導することで失敗を減らすように努めている。夜間も負担のないように誘導するようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の尿意のサインを見逃さないようにして、トイレでの排泄を支援している。夜間のポータブルトイレ使用者には、声かけと見守りで、安全に配慮しながら自立を支え、紙パンツやパッドの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の利用・水分摂取・運動を心掛け、便秘を予防している。必要に応じ主治医に相談し服薬でも対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴出来るようにしており状況に合わせた柔軟な対応をしている。日々変化する状態に対して必ず申し送りをし、事故のない安全な対応に配慮している。	入浴は、毎日でも入れる体制がある。個々の身体状態に合わせ、適切な福祉用具を使用し、安全で安楽な入浴を支援している。羞恥心にも配慮をし、職員と会話をしながら、ゆったりと入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息して頂いているが、夜間の安眠確保の為に日中の活動量を増やしメリハリのある生活をして頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には必ず目を通し押印することで全職員が理解に努めている。変化のあったときには必ず申し送り主治医・看護師・薬剤師に報告し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り個別対応に努めており、歌唱・園芸・嗜好品の提供など生活の支援を心掛けている。外食・散歩など気分転換の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出支援は行っている。一人一人の希望については今の所家族に協力を頂いている。近所の方から散歩の付き添いの申し出がありお願いをしている。	日常的に、周辺を散歩し、近所の人と挨拶を交わしている。散歩時には、ゴミ拾いも行っている。日当たりの良い中庭での散歩や、ベンチでの外気浴も楽しんでいる。墓参りや行楽地、季節の花見などは、家族の協力を得て、出かけている。	



岐阜県 グループホーム 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、希望時は一緒に買い物に行っている。家族との連携のもと、現金を所持している方もみえ、安心感となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人が直接会話が出来るようにプライバシーに配慮している。家族や友人からの手紙を受け取られ喜びとなっている。返事を書くことはなかなか難しいようで混乱のないように介入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い陽射しはカーテンを利用、室内は明るさ、温度にも配慮している。和みや温かさを大切にするため、装飾にも工夫している。	共用の間は、整理・整頓、清掃が行き届いている。壁のタペストリーは、季節感があり、色づかいにも配慮をしている。夜間でも、時間が確認ができる振り子時計が、洗面所に掛けてある。生活感があり、居心地のよい、空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくり居室で休んで頂いたり、廊下に置いた椅子で他者とおしゃべりを楽しんで頂いたりと自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に説明を行い、本人の使い慣れた家具や寝具を持参頂いている。居室担当を決め、利用者とともに居室を整理する支援もしている。	居室の掃除は、利用者と担当職員が一緒に行っている。使い慣れた整理筆筒や、小物入れを好みに配置し、壁面のコルクボードには、家族と一緒に写った写真や、ホームで撮った写真などを飾っている。外から聞こえてくる子どもたちの声に癒され、安らげる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等に目印を付け、識別しやすくしている。居室にも名札を付けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800016		
法人名	(株)ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	土岐ケアセンターそよ風グループホーム(2階)		
所在地	岐阜県土岐市肥田浅野元町2丁目24番地		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員の間で共有している。地域との関わりの中で、認知症の方の生活を理解して頂き、関係を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物、散歩等、外出時の触れ合いの中で職員がパイプ役となり交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学生、中学生の職場体験の受け入れ、子供110番の設置、センター内夏祭りの実施など地域の方との交流の場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの家族の参加がある。他のご家族と意見を共有し、その上で日頃の面会時とは違った意見も出されそれらをサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行い情報交換等を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の中で一人一人の職員が拘束について考え意識付けを行っている。拘束をしないケアを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束と同時に勉強会をし、職員一人一人が日常的に意識しています。		

岐阜県 グループホーム 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方は現在はおみえになりませんが、今後あった場合には対応できるよう体制を整えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明を行い、不安・疑問などを伝えやすい関係を築けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見・要望にはすぐに対応して職員一人一人がサービス向上に努めます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の思いに耳を傾け受け止め、話しやすい働きやすい職場作りを心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の仕事に対しての姿勢など評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修会の広報誌を回覧しステップアップへの啓発に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や医療関係者主催の勉強会に出席しネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の時には本人が今何を希望しているのか、何に不安を感じているのかなどを傾聴に努め少しでも不安が緩和出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が少しでも安心して在宅の時とは違った関係性が築けるようパイプ役になれるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で居室の空きがない場合は多様なケースがあることを説明し支援の必要性に応じて他施設への申込やサービスの紹介を行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人の出来る事お好きな事を把握し、出来ない事にはお手伝いさせて頂く姿勢で寄り添います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族お互いの思いを理解し穏やかな環境作りを心掛けます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	センター内での交流の場を持ち知人・近所の方等の来やすい環境作りを心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流時は必ず見守り、必要に応じて介入します。一人の時間を希望される方には思いを尊重しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも家族からの相談・近況報告も受けており気軽に立ち寄ることの出来るホームでありたいと努力しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で早期に思いを把握し心配がないように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の情報収集、家族との連携の中で少しでも利用者・家族の意向に添えるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察し、本人の思いも尊重し精神面・疾病も含めて総合的に把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームカンファレンスも行っているが日々の現状で何かあればすぐに対応出来る様努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に書き残すことで全職員の情報共有につながり、サービスの見直し・検討に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の帰宅願望には家族との連携にて外泊の機会が持てるよう支援しています。		

岐阜県 グループホーム 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回のヨガでは週替わりで講師を招待しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の主治医の往診を受けている。他の医療機関での適切な治療が受けられる体制作りもしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師の来訪時、日常の気付き等を報告・相談している。看護師から主治医への報告もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は病院関係者との情報交換を密に行い、今後の支援の方向性を検討します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話をしています。家族・本人の意向をあらかじめ確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて社内研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回日中・夜間想定で行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場になり考えながら対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定出来るように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムに配慮した対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに合った服装が出来る様支援・お手伝いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど下ごしらえを手伝って頂きながら、献立を想像するような会話をしています。楽しみながら共同生活が行えるような支援を心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量に配慮し、体調管理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの促しをし、夕食後は特に丁寧に口腔内・義歯の洗浄をして頂きます。自分では困難な方にはお手伝いをしています。夜間は義歯をお預かりし薬剤洗浄を施行しています。		



岐阜県 グループホーム 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや能力・習慣を見極め必要に応じて介入しています。排泄チェック表を用いて排泄間隔の把握をし、誘導をしています。自立に向けて介入しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘を予防できるような食材などを考えている。水分摂取も促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望・タイミングに合わせて声掛けしています。拒否される場合には時間をおいたり、翌日にするなど無理強いはしないようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなく、ソファやフロアでの休息も考え、声掛けしています。生活習慣も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には全職員が必ず目を通しています。薬の目的、副作用など理解に努めています。体調等変化があった時には必ず報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力を見極め、役割を持って頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りの希望に添えるようにしています。気分転換に散歩・買い物に出かけられるようにしています。		

岐阜県 グループホーム 土岐ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は現在職員がしています。本人の希望があったときは一緒に買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話がかけたいという本人の思いがあるときには取り次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は機能性だけでなく安心出来る空間となるように気を配っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外にも安心出来る場所を作り、思い思いに過ごして頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた物など本人・家族と相談し居心地の良い空間となるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の能力を引き出していく中で出来る事を増やせるよう誘導を行っている。		